

岡山県生涯学習審議会及び岡山県社会教育委員の会議第4回会議

議事概要

日時 令和6年11月11日（月）
14:00～16:00
場所 県庁3階大会議室

1 開 会

2 議 事

- (1) 第1～3回会議の議論の整理について
- (2) 多様なニーズに応じた公民館による学びの支援事例実践発表
- (3) 審議「多様なニーズに応じた公民館による学びの支援」

3 その他

4 閉 会

<議事概要>

○事務局

「資料1」により第1～3回会議の議論の整理と本日の進め方について説明

| | |
|----|--|
| 会長 | 質問はあるか。本日の進め方についても事務局が提案した形で審議を進めてよろしいか。 |
| 全員 | 了 |
| 会長 | 次に、多様なニーズに応じた公民館による学びの支援事例として、障害のある方の生涯学習を考えていく上で必要な視点について、皆さんと共有していきたい。 一つ目の実践発表として、株式会社ありがとうファームの木庭委員に、障害のある方が生涯学習に取り組む際に課題となる点について、二つ目の実践発表として、備前市立西鶴山公民館の今井館長に東備支援学校と連携した公民館活動について発表していただく。 それぞれの実践発表後は質問のみ行い、その後グループで意見交換を行う。 |

○株式会社ありがとうファーム 代表取締役 木庭康輔 委員
「資料 生涯学習審議会・公民館事例発表」

- 会長 ただいまの御発表について、質問があればお願いしたい。
- 委員 どのような過程で約20名のアーティストが集まったのか。
- 委員 ありがとうファームは、弊社の就労継続支援A型事業所であり、障害のある方が働く場所である。ハローワークの障害者専門求人で、絵を描くことが好きな方を募集し、約20名を採用している。多くの方は、絵を描くことが好きで子どもの頃から描いているから上手な方であり、障害があるから出せる色や引ける線があるわけではない。障害があっても様々なことができることを知ってもらう手段として絵を活用している。雇用するにあたり特別な技能や条件はない。
- 委員 資料には、障害者を対象とするプログラムがあればよいというアンケート結果があったが、対象を障害者に限定したプログラムのほうが参加しやすいのか。障害の有無に関係なくユニバーサルにターゲットニングされている場合、参加する障害者の意識は変わるか。
- 委員 自分にとってその時間が楽しく、他より優先度が高いかどうかによるのではないかと。イベント対象者が障害者であるかに関わらず、そこに学びがあり、有益な時間を過ごすことができるかによる。
障害の特性上、人が多い場所を苦手とする方は一定数いるため、イベントの有益性だけが判断の対象とはならないが、弊社で働く職員は、参加対象者に健常者がいるかに関わらず、楽しめる方が多い。
- 委員 仕事上のスキルアップや一般就労への移行を検討するにあたり、障害のある方が学ぶ場所はあるか。また、そのようなニーズ自体はあるか。
障害のある方が出産や子育てを行う場合等、生活面での困難さや悩みを相談できる場所はあるか。
- 委員 A型事業所は一般就労移行を目標にする事業所であるため、勤務時間内はビジネスマナーや体力向上等、技能・精神面で職員と関わることもある。一方で、勤務時間外に学びを意識した活動をしている職員は少ないと感じている。弊社職員約80名のうち、勤務終了後にサークル活動や学習をしている人はほとんどいない。今後そのような人が増えてほしいと感じている。

日本は、障害福祉サービスや介護サービス等、生活面の支援体制は充実しており、ヘルパー派遣やお出かけ支援の他、障害のある方の出産時のサポートについても制度としてはある。

一方で、公民館等で行われるサークル活動やママ友関係等の中で、障害のある方が相談しやすい状況とはいえない。A型、B型事業所は働く場所であることから、職員の生活には必要以上に介入しておらず、生活面で困っている方々を包括する地域づくりが行われるとよい。

委員 大人になると、自身の価値観や生活スタイルを変えにくいものであるが、障害のある方が今までの生活スタイルを変え、公民館に通うことは困難なくできるか。

委員 弊社では「人は変われる」という信念で、障害のある職員の支援に取り組んでいるが、生活習慣を変更することが難しい方は多い。初めて行く場所に対して精神的に負担を感じる方や、一般就職や結婚、友人づくりはできないと決めつけている方もおられる。

就労支援事業所で、公民館の利用が生活の一部となるきっかけ作りはできると思う。公民館に行くことが本人の生活の中で優先順位が高くなれば行くのではないかと思う。

委員 幼少期や学童期に公民館に行く機会が多ければ、大人になってからも公民館に行くことの優先度が上がるのではないか。

委員 そのとおりである。保護者の価値観や意識は当事者にも影響し、地域の中での居場所や繋がりが保護者にあれば、当事者たちの人生にも良い影響があると思う。

会長 次に、西鶴山公民館の今井館長様に東備支援学校との連携についてご発表いただきたい。

○備前市立西鶴山公民館 館長 今井 歩

「資料 岡山県立東備支援学校と備前市立西鶴山公民館との交流活動」

会長 御質問があればお願いしたい。

委員 東備支援学校と西鶴山小学校が交流し、協働して作品を制作されている。この令和4年度の交流はその後継続して行われているか。

今井館長 | その後も交流自体が継続して行われているかは承知していない。

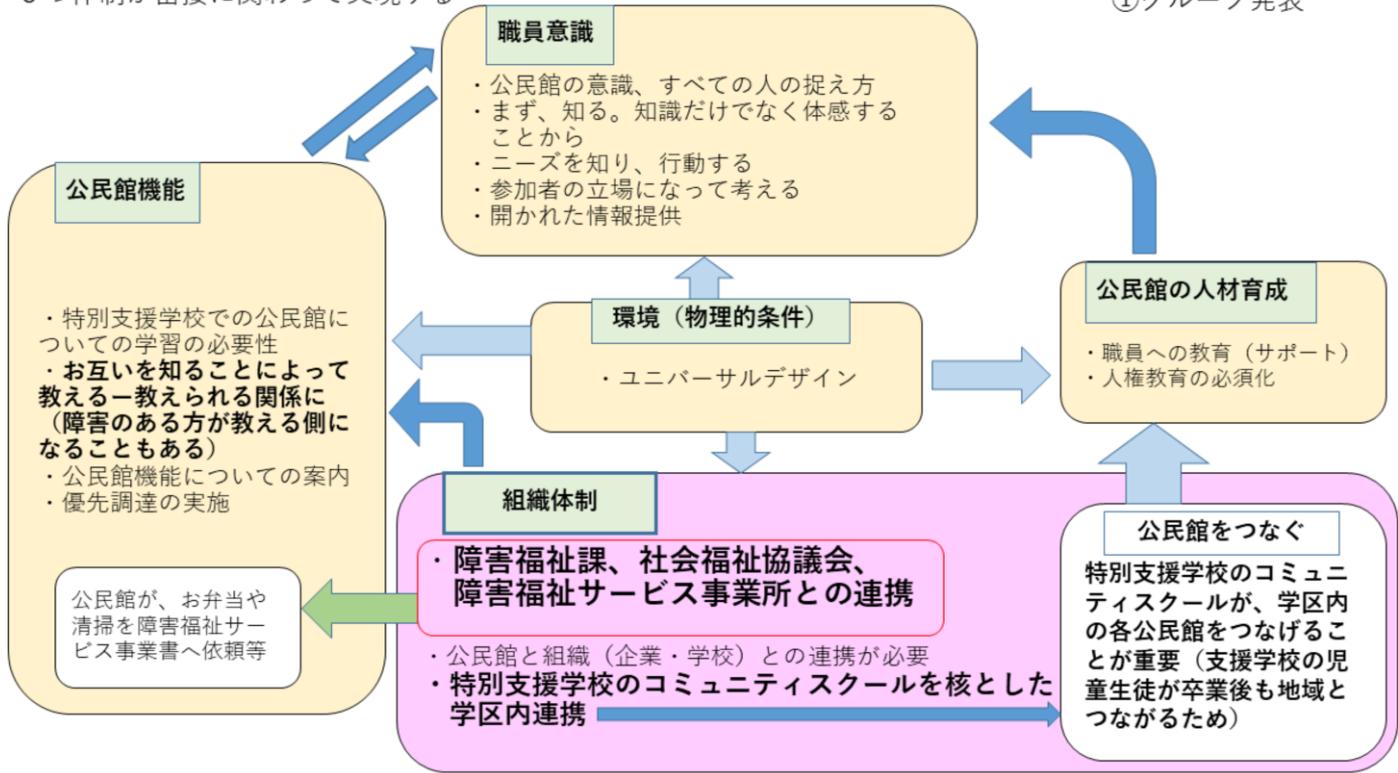
委員 | 支援学校を卒業された方は、その後、西鶴山公民館を訪れているか。

今井館長 | 訪れていない。支援学校は学区が広く、卒業後は自分が住んでいる地域の公民館に行ってみてほしいと話している。

会長 | 本日はこの後グループで協議を行うため、会場後方のそれぞれの席へ御移動をお願いしたい。

○ 3 グループに分かれて協議

事務局 | どのような議論が出たのか、紹介をしていただきたい。
以下、別紙参照

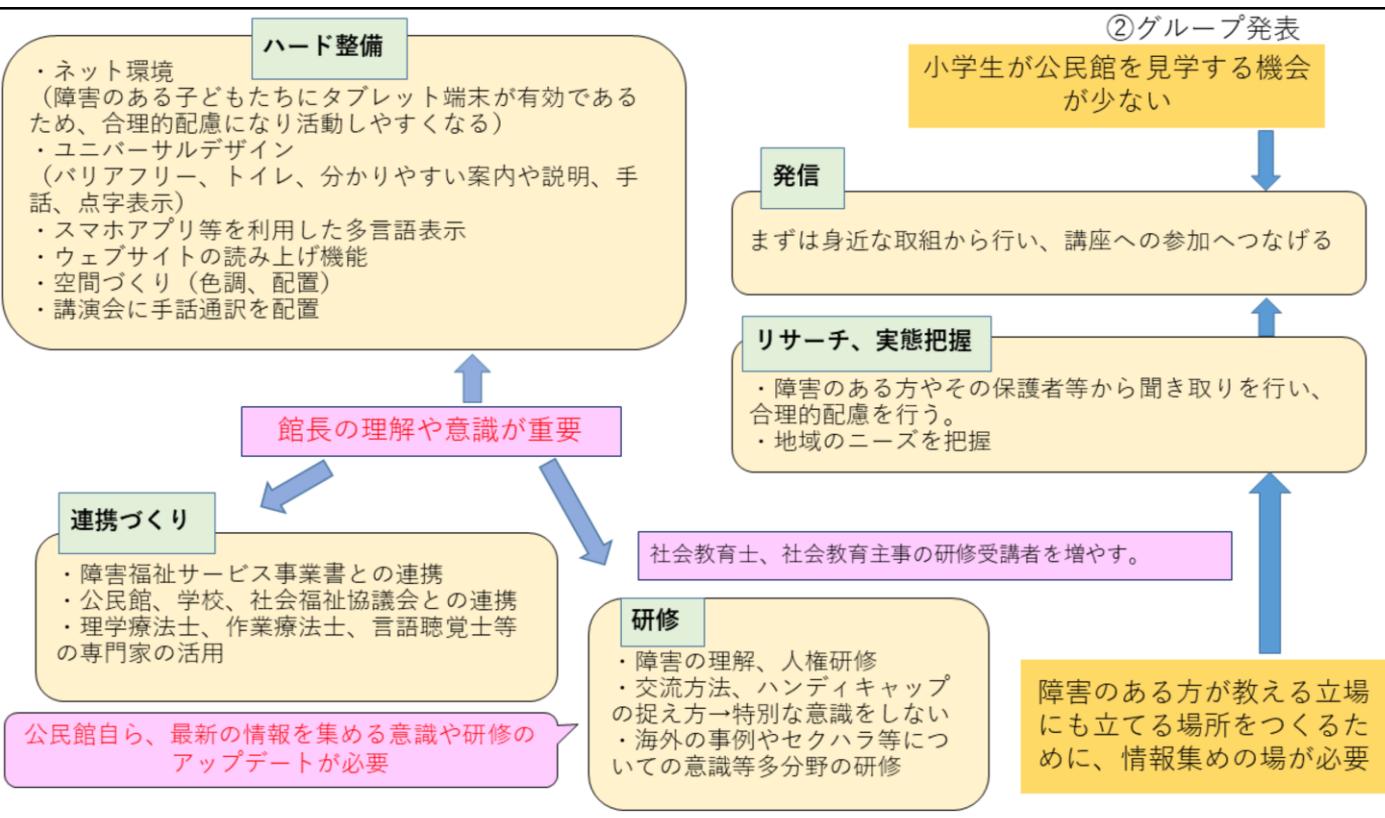


5つの柱があると考えた。まず中央に、物理的な条件であるユニバーサルデザインを置いた。これは絶対条件である。次に、職員意識の改革や人材育成、組織体制、公民館機能の充実、これらが密接に関わって実現すると考えた。

人材育成においては、職員への教育サポートが必要となる。組織体制では、障害福祉サービス事業所や自治体の障害福祉担当課との連携や、特別支援学校がコミュニティスクールを核として、児童生徒が住む各公民館と連携することが大切であると考えた。支援学校の児童生徒が卒業後も地域とつながるために重要である。公民館が連携し、障害のある児童生徒の理解を深めることによって職員意識が変わる。そのためにも人材育成を行い、公民館機能の充実を図ることが重要である。

職員は、参加者の立場に寄り添うことや、お互いを知ることが大切である。お互いを知ることによって障害のある方が教える側になることもある。また、公民館を所管する教育委員会が、障害福祉担当課や社会福祉協議会と連携することにより公民館内で優先調達等の実施等もできる。

障害者も健常者も関係なく、学習をしていくことが大切である。



身近な取組から行い、講座の参加へつなげていくよう公民館から積極的に発信していく必要がある。特に都市部以外の公民館においてはスキルアップ等自身の仕事につながる研修ができる場であると認識されることが必要である。

研修内容は、障害理解や外国文化理解だけではなく、セクシャルハラスメントも必要であり、子どもや障害のある方に対してもハラスメントは絶対に許されないことについて研修が必要である。

また、研修内容が古くならないよう日頃からアンテナを立て、最新の情報にアップデートしていくことが必要である。

ハード面

- ・オンライン参加を可能にする
- ・公民館事業参加のための送迎サービス（子どもや障害者）
- ・情報の共有と共同発信
- ・関わり・成果をPRする場

公民館はコミュニティを持っているのか

ソフト面

- ・障害者のスキルアップ
- ・それぞれの立場をきめつけず、障害者が提供側に回る

・公民館職員の企画力

- 対象者を限定しない企画、特定の属性の人が集まる企画どちらも必要
- スキルアップ、学習ができるもの
- 趣味的なもの

公民館がつくるコミュニティの可能性

企画テーマ設定等を超えて

この場所にいると包摂されていると感じる居場所づくり

公民館

ありがとうファーム

学校

地域

コミュニティ
スクール

議論の土台

- ・グラデーションとしての障害の認識（障害の程度、特性は様々であり、インクルーシブに事業を行う。）
- ・障害の有無についての視点は不要である一企画がおもしろいかおもしろくないか次第である。
- ・幼少期から公民館を身近なものにする。そのためには保護者にとっても行きやすい場所である必要がある。

西鶴山公民館の活動は、学校が行うコミュニティスクール活動を公民館が補完し地域とつながったものである。ありがとうファームの事例は、事業所にある障害者コミュニティを公民館とつなげたものである。公民館がコミュニティを持っているかが焦点である。

障害の程度にはグラデーションがあり、誰しものが特性を持った存在であると考えれば、障害者を対象として事業を展開するのではなく、インクルーシブに事業を展開すべきではないか。参加するかどうかは、対象者の形態ではなく、企画に興味があるかどうか次第である。

ハード面では、オンライン参加や事業へ参加するための送迎体制等も必要となってくる。

ソフト面では、公民館職員の企画力が求められる。対象者を限定しない企画や、特定のテーマであるからこそ参加したい方もいる。学習、スキルアップができる企画や趣味的な活動等、さまざまな活動の企画が必要である。

その一方で、コミュニティにテーマや意図が設定されていなくても、「この場所にいると自分は包摂されていると感じられる居場所」を作れる可能性もある。公民館が作るコミュニティは、西洋の教会のように当事者にとって心の拠りどころとなる場所となる可能性もある。